

明石工業高等専門学校		開講年度	平成30年度 (2018年度)		授業科目	建築計画Ⅱ	
科目基礎情報							
科目番号	0055			科目区分	専門 / 必修		
授業形態	講義			単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	建築学科			対象学年	3		
開設期	後期			週時間数	2		
教科書/教材	岡田光正他『新訂 建築計画1』鹿島出版会参考:『コンパクト建築設計資料集成』丸善						
担当教員	水島 あかね						
到達目標							
1) 人間の知覚や行動について説明することができる 2) 空間を構成している要素について説明することができる 3) 特徴的な外部空間の構成について説明することができる							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	人間の知覚や行動について事例を挙げて説明することができる			人間の知覚や行動について簡単に説明することができる		人間の知覚や行動について説明することができない	
評価項目2	空間を構成している要素について、その特徴を説明することができる			空間を構成している要素について説明することができる		空間を構成している要素について説明することができない	
評価項目3	特徴的な外部空間の構成を事例を挙げて説明することができる			特徴的な外部空間の構成について説明することができる		特徴的な外部空間の構成について説明することができない	
学科の到達目標項目との関係							
学習・教育到達度目標 (D)							
教育方法等							
概要	気候、風土、歴史、文化など、建築がその土地が持つ様々な要素から形作られてきたことを知り、建築に対する多角的なものの見方や建物を計画する上で必要な基礎知識を身につけることを目標とする。						
授業の進め方・方法	主に授業は事前に取り組むレポートと授業中のディスカッション、スライドを用いた説明による。						
注意点	普段から身の回りの環境に関心を持ち、人の行為と空間との関係などを良く観察するようにすること。 合格の対象としない欠席条件(割合) 1/3以上の欠課						
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	オリエンテーション		本授業の進め方や評価方法、目標を理解し、人に説明することができる		
		2週	人間の知覚と行動（１）：知覚の特性		人間の知覚の特性について説明できる		
		3週	人間の知覚と行動（２）：色彩		色彩計画で考慮すべき事柄を挙げて説明することができる		
		4週	人間の知覚と行動（３）：行動と形態		人の空間認識について説明することができる		
		5週	空間の形態（４）：美しさと形態		美しいとされる比例関係や対称性、バランスなどを説明することができる		
		6週	空間の形態（５）：象徴性と形態		象徴的な建築を挙げることができる		
		7週	空間の形態（６）：その他		様々なアプローチから建築が形作られることを説明することができる		
		8週	中間試験				
	4thQ	9週	良い景観・悪い景観		景観に関する自分の見解を述べることができる		
		10週	計画のプロセス		計画のプロセスについて説明することができる		
		11週	空間構成の技法		空間構成の手法（ドミノ・システムや五原則など）を幾つか説明することができる		
		12週	空間要素のエレメント		空間を形成する要素を幾つか挙げて説明することができる		
		13週	外部空間の構成（１）		歩行空間の計画手法について説明することができる		
		14週	外部空間の構成（２）		建築の配置形態を幾つか挙げて特徴を説明することができる		
		15週	まとめ		本科目で学んだことをふりかえって、説明することができる		
		16週	期末試験				
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週	
専門的能力	分野別の専門工学	建築系分野	計画・歴史	現代社会における都市計画の課題の位置づけについて説明できる。	1		
				街路計画の手法と理念について説明できる。	2		
				景観形成・風景計画、用途・形態規制の仕組みについて説明できる。	1		
				モジュールについて説明できる。	4		
				建築設計に関わる基本的な家具をはじめとする住設備機器などの寸法を知っている。	4		
				建築計画・設計の手法一般について説明できる。	3		
分野横断的能力	汎用的技能	汎用的技能	汎用的技能	日本語と特定の外国語の文章を読み、その内容を把握できる。	3		
				他者とコミュニケーションをとるために日本語や特定の外国語で正しい文章を記述できる。	3		

			他者が話す日本語や特定の外国語の内容を把握できる。	3	
			日本語や特定の外国語で、会話の目標を理解して会話を成立させることができる。	3	
			円滑なコミュニケーションのために図表を用意できる。	3	
			円滑なコミュニケーションのための態度をとることができる(相づち、繰り返し、ボディランゲージなど)。	3	
			書籍、インターネット、アンケート等により必要な情報を適切に収集することができる。	3	
			収集した情報の取捨選択・整理・分類などにより、活用すべき情報を選択できる。	3	
			収集した情報源や引用元などの信頼性・正確性に配慮する必要があることを知っている。	3	
			情報発信にあたっては、発信する内容及びその影響範囲について自己責任が発生することを知っている。	3	
			情報発信にあたっては、個人情報および著作権への配慮が必要であることを知っている。	3	
			目的や対象者に応じて適切なツールや手法を用いて正しく情報発信(プレゼンテーション)できる。	3	
			複数の情報を整理・構造化できる。	3	

評価割合				
	試験	レポート等		合計
総合評価割合	70	30	0	100
基礎的能力	0	0	0	0
専門的能力	70	20	0	90
分野横断的能力	0	10	0	10